

大学番号：私279

注3

届出

[平成23年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

第一工業大学 工学部 航空工学科

注2

## 【届出】設置に係る改善意見等対応状況報告書

学校法人都築教育学園

平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 キョウガクチョウ シ ヒ タ カズノリ  
教学課長 紫尾田 一徳

電話番号 0995-45-0640

（夜間） 090-5935-4257

F A X 0995-47-2083

e-mail kyougaku@daiichi-koudai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 工学部

<航空工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等 . . . . .	1
2. 既設大学等の状況 . . . . .	2
3. 教員組織の状況 . . . . .	3
4. 前年度のAC調査において付された意見への対応状況 . . . . .	4

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人都築教育学園

## (2) 大学名

第一工業大学

## (3) 大学の位置

〒899-4395

鹿児島県霧島市国分中央1丁目10番2号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工学部 航空工学科 学士(工学)	工学関係	4 年	60 人		年次 人 240	

- (注) ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。  
・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

## 2 既設大学等の状況

大学の名称		第一工業大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
≪AC対象学部等≫ 工学部 航空工学科 情報電子システム工学科 機械システム工学科 自然環境工学科 建築デザイン学科	4 4 4 4 4	60 150 50 50 50		240 600 200 200 200	学士 学士 学士 学士 学士	0.56 0.96 0.57 0.79 0.62	平成23年度 昭和43年度 昭和43年度 平成23年度 昭和49年度	鹿児島霧島校地(キャンパス) 鹿児島県霧島市国分中央1丁目10番2号  東京上野校地(キャンパス) 東京都台東区上野7-7-4 東上野4-26-5 北上野1-7-4	
(注意) 課程認定等により専攻・コースに入学定員を定めている場合は、専攻・コース別にも記入してください。(履修上の区分として専攻・コースを設けている場合は記入は不要です。)									
(注意) 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。									
大学の名称		第一幼児教育短期大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
幼児教育科	2	100	-	200	短期大学士(幼児教育)	1.10	平成21年度	鹿児島県霧島市国分中央1-12-42	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

### 3 教員組織の状況

<工学部 航空工学科>

#### (1) 設置基準上の必要専任教員数

現在（報告書提出時）における設置基準上の必要専任教員数	うち、現在（報告書提出時）における設置基準上の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

#### (2) 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)
6	2	0	0	8	7	5	5	0	17
(6)	(2)	0	0	(8)					

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

#### (3) 年齢構成

年齢構成	
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数
教授 65 その他 60 歳	9 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

#### 4 前年度のAC調査において付された意見への対応状況

意見		履行状況	未履行事項についての実施計画
	改善意見	平成26年度、航空工学科に開設したパイロットコース、航空整備士コースの効果により、平成27年度入学者数は47名となったものの、平成28年度は、志願者57名に対し、辞退者が増加したため、入学者数が29名と低迷した。 平成29年度は、学生募集を強化し、志願者数(89名)は大幅に増加したが、入学者の大幅な増加に結びつかず、32名に留まった。	航空業界の人材不足は深刻で、航空工学科へ求人件数も急増している。航空産業への人材育成は、航空工学科を保有する本学の社会的使命と認識し、H26年度のパイロット、航空整備士コース新設は募集に一定の効果は上げているものの、伸び悩んでいる航空エンジニア育成のコースの学生確保のために、受験生や保護者に社会的ニーズの高さや将来性についての説明を強化し、改善に努める。
	改善意見	平成26年度開設のパイロットコース、航空整備士コースの教育は安全を最重視する目的から、実務経験豊富な教員主体で構成しており、その目的から他学科とは異なる運用としている。(エアラインパイロット定年も67歳に引き上げられており、この運用は社会ニーズには適合と考える。)	平成29年度に、パイロット、航空整備士の両コースとも完成年度を迎えることから、教育実績を踏まえて教員組織編成の将来構想を今年度中に策定する予定。
	改善意見	平成26年度から教育現場に支障の無い範囲で、定年超教員比率を削減している。平成29年度は定年超教員の退任と新規教員の採用により、平成29年度4月1日現在で0%に改善した。	実業界の現場では、経験豊かな技術者の退任で、ものづくり技術の空洞化が課題となっている。それを補完する責務を持つ大学として、技術立国日本の人材育成に資するため、教員組織編成のあるべき姿を検討していきたい。
	改善意見	機械システム工学科は、学生募集を強化しH28年度入学者数の21名に対して、平成29年度は、37名と大幅に改善した。 建築デザイン学科も平成28年度の26名から、平成29年度は30名と回復の兆しが見られる。	両学科とも、平成28年度、平成29年度ともに就職率は100%を達成し、社会的な人材ニーズは高い。 機械システム工学科は、平成28年度から新設の医療福祉ロボットコースの将来性等、両学科共にコースの教育充実に取組み、学科への社会的ニーズの大きさを、受験者や保護者へ訴え、更なる学生募集に結びつけ、改善に努める。

(注) ・ 前年度のAC調査において付された意見への対応状況を具体的に記入するとともに、

その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。

なお、未履行事項がある場合は、今後の実施計画を具体的に記入してください。

- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。